

新冠にまつわるお話しを集めた 新冠百話

第十話

「札幌市街地の新冠通りについて」 (要約文)

札幌市で発行した『札幌歴史地図』という本に、「新冠通り」という名称が記載されている。この通りはどのような経過でつけられた地名であろうか。

明治2年、札幌本府の建設が開拓使判官島義勇の指揮の下に開始。市街地地域の建設をはじめ、積雪の中で官舎や倉庫の建設が始まった。明治4年、開拓使判官岩村通俊が札幌本府経営の主任官となり、都市計画案の決定、街路や街面の測量をはじめ、道路造成や河道切替工事も着手された。この都市計画と並んで、建物づくりにはアメリカ人技術者がマサチューセッツ州から多勢来道したことから、開拓期のアメリカと情景が似ていることも札幌の特徴の一つともなっている。このような状況の下で、通り名に北海道内の地名を付す方式を採用している。

明治5年9月19日布達には次のように記されている。(二部抜粋)

- 創成通 上川通 空知通 樺戸通
- 石狩通 札幌通 厚田通 浜益通
- 夕張通 雨竜通 日高通 沙流通
- ※新冠通 静内通 三石通 浦河通
- 様似通 幌泉通 渡島通 爾志通
- 檜山通 津軽通 福島通 上磯通
- 胆振通 山越通 虻田通 有珠通
- 室蘭通 幌別通

しかしながら、明治14年には国郡名による通り名を、現在の条丁目に改めた。今後も拡大する市街地に、多くの国郡名を付することは繁雑になり実用的でないためである。かつて札幌市街地と呼ばれた「新冠通り」を知っている札幌市民は皆無に近いであろうし、新冠町民もまた同様であろう。札幌を訪れた際に、かつての「新冠通り」を偲んでみるのはいかがだろうか。



「新冠通り」が記された札幌市街地図 (明治5年)
* 『新北海道史』第3巻より

『新入学期の交通事故防止』

- 横断歩道は歩行者最優先
 - スピードダウンでゆとりを持った運転を
 - 交差点はしっかり安全確認を
 - 歩行者は夜光反射材の着用を
- 静内警察署

火災・救急出動状況 () かつこ内は前年同期

区分	火災件数	救急件数
2月	1件 (0件)	29件 (33件)
31年1~2月	2件 (0件)	59件 (60件)

交通事故発生状況 () かつこ内は前年同期

区分	発生件数	死者	傷者
2月	1件 (1件)	0人 (0人)	1人 (1人)
31年1~2月	2件 (1件)	0人 (0人)	2人 (1人)

人のうごき

(平成31年2月末現在)

人口	5,530人	(前月比 - 10人)
男	2,722人	(前月比 - 2人)
女	2,808人	(前月比 - 8人)
世帯	2,747世帯	(前月比 - 5世帯)